

【平成 30 年度 授業改善推進プラン】

板橋区立志村第五小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読書や音読等に、進んで取り組むことができる児童が多い。 ○家庭での音読学習に対し、保護者の協力をいただいている。 ○叙述に即して想像したり、内容を深く捉えたりして、相手や目的に合わせて、自分の感想を豊かに表現することが苦手な児童が多い。 ○児童によって、読む読書量やジャンルに差がある。また、「書くこと」に抵抗がある児童もいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読んでいる本のジャンルを多様化させること。 ○日常生活の中で、豊かな言語文化に触れる機会を多くすること。 ○漢字練習や語句に関する学習の時間を多く確保することが難しい。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○読書の大切さについては、児童だけでなく保護者の理解も得られており協力的である。さらに、読書量や内容の豊かさも高めていけるように、「読書ファイブ」を設定したり、西台図書館による団体貸し出しなどで授業と関連のある本を取り寄せたりすることを通して、児童が幅広く読書に興味をもてるようにする。また、西台図書館による出前授業や教師による読書バイキング・ブックトークなどを通して本に対する興味関心を高め、読書活動の充実を図っていく。 ○板橋区「読書のあしあと」を活用し、学期につき低学年20冊、高学年15冊を目標に読書に取り組む。 ○漢字マスター（漢字50問テスト100点）全員合格に向け、繰り返しテストを実施する。 ○協働的な学習を導入し、一単位時間の中に、友達と意見を共有する時間を設けるよう努める。 ○「板橋区授業スタンダード」をもとに、一単位時間に児童が何を学んだかが分かるノート指導を行う。 ○見通しをもって各種学力テストに臨み、課題を明確にするために、フィードバック学習等の過去問題やフィードバック学習教材・東京ベーシックドリル等を活用する。高学年では特に、過去問題に取り組むだけでなく、条件をつけて文章を要約したり、資料から必要な内容を読み取ったりする学習を授業内で意図的に取り入れる。

【社会】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で調べた事や考えたことを、ノートなどにまとめて書けるようになってきている。 ○社会科見学などの体験的な活動や実物（レプリカ）等を活用した授業に意欲的に取り組むことができる。 ○地図や年表、グラフなどの資料を正しく読み取ることが苦手な児童が多い。 ○方位や細かな地名などの知識の定着をさせていく必要がある。 ○提示された課題については意欲的に取り組めるが、自ら課題を見つけたり、深く追求したりする姿勢を伸ばしていきたい。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活と社会科の学習内容を結びつけて考えさせる機会が少ない。

	<ul style="list-style-type: none"> ○地図や年表、グラフなど、複数の資料の読み取り方の理解が不十分である。また、それらから分かる事実をまとめる学習機会が少ない。 ○日常から離れた社会科の専門用語の意味を十分に理解させ、学習を深めていくことが必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活と社会科の学習内容を結び付けて考えられるよう、教材・教具の充実を図る。 ○資料の読み取り方を繰り返し確認して身に付けさせる。複数の資料を比較して共通点や相違点を見い出せるよう、視点を与えて丁寧に指導する。また、調べる学習の回数を重ねることで、自分の調べたいことに必要な資料を自分で選べるようにしていく。 ○地図帳を日常的に活用し、方位を使って地図を読み取らせ、細かな地名や位置を確認する活動を繰り返し行う。 ○日常から離れた社会科の専門用語をそのまま使うのではなく、自分でわかる言葉に直したり図表を使ったりしてまとめさせる。 ○学習のめあてを明確にし、学習課題の解決・達成のためにどんな活動が必要なのかを考えさせることで学習の見通しをもたせる。 ○児童が「課題を立てる」「資料を読み取る」「読み取ったことから考えをまとめる」という学習の流れを定着させる。

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導により、基礎的・基本的な学習の定着が図られ、学力テスト等でも結果があらわれた。 ○既習事項と結び付けて解決方法を考えたり、自分の考えをまとめた言葉で表現したりすることを苦手とする傾向がある。 ○文章題から題意を読み取れず、正しい立式ができない児童が多い。 ○ノート指導の徹底により、大半の児童は自分の考えや感想をノートに記述できるようになった。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章題から問題場面を想像し図や式に表す力を十分に指導できていない。 ○筋道を立てて考え、表現する力を十分に指導できていない。 ○特別な指導を必要とする児童の課題を共有し、個に応じた支援の構築が必要である。 ○小グループの話し合いを、形だけの活動にならずに充実させることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題では、問題場面を単元の特性と児童の実態に合わせて絵や図で表すようにし、そこから演算決定ができるよう指導を行う。 ○問題解決型の学習形態を増やし、自分の考えをまとめる活動や、友達の考えを聞く時間などを設け、いろいろな解決方法を身に付けていけるようにする。 ○都の学力調査等を分析し、個に応じた少人数指導を行うとともに、東京ベーシックドリル等の学習教材を活用する。家庭学習「ひいらぎノート」、計算道場や夏休みの学習教室等を活用して学習内容の定着を図る。 ○協働学習の中で、話し合いのめあてを明確にし、自分の考えを他者に伝えたり、考えを深め合ったりできる話し合いの場面を設ける。

【理科】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物を好み、生き物を育てたり、植物の観察をしたりして、変化や成長に気付くことができる。しかし、継続して細かに世話をしたり観察したりすることが苦手である。 ○普段の生活から事象について自分なりに予想を立てたり、類推したりすることができる。 ○実験の結果を重視しない傾向がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実験の設定から結論までの流れが確立されていない。 ○用語の知識や器具の正しい操作等を含めた基礎的・基本的な内容の定着が十分に図れていない。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のめあてをノートに書かせてしっかりと認識させ、一人一人が問題意識をもって学習に臨めるようにする。 ○実験の手順を「課題設定→実験方法→予想→結果→考察→結論」と設定し、毎回同じ手順で実験することによって、論理的思考力を養うとともに進んで実験に参加する態度を育てる。 ○グループで協力して学習課題を解決する場を多く設定することで、実験に主体的に参加し、実験結果の価値を理解させる。 ○植物を育てたり、生き物を飼ったりする機会を各学年に設定し、継続した世話や観察を行い、動植物の変化に気付く力を養う。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○町探検や1、2年や保育園児との交流活動に目当てをもち、意欲的に取り組み、楽しむことができる。 ○個人や学校の花壇において花や野菜を育て、身近な自然を観察し、見付けたことを素直に表現しようとしている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年では、赤塚公園への秋探し活動や動物公園での自然体験、2年では、町探検活動などを実施したが、昨年度までの反省を生かした単元計画を修正していくことが課題である。 ○体験的活動には意欲的に取り組めたが、それを通して、自分や友達によさに気付いたり、満足感を味わったりさせていく学習過程を改善していくことが課題である。 ○町探検では、働いている人へのインタビューを行った。さらに、その場所での体験活動を取り入れて行っていくには、地域との調整や準備時間を作っていくことが課題である。 ○2年では、町探検で調べたことを元に紙芝居形式で発表を行ったが、取り上げる内容や表現の工夫を指導していくことが課題である。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○交流や体験活動などの学習活動を年間指導計画に位置付け、児童の実態や支援環境に合った単元・教材を精選し十分な準備や見直しをもって指導していく。 ○地域の人々に協力していただけるよう、早めに計画を立て連絡・調整を図る。 ○具体的な活動や体験を通して思いや願い、考えをもたせ、自他への気付きや満足感を得られるよう声かけをする。 ○調べたことやまとめたことを発表する機会をさらに設け、いろいろな表現方法を経験するようにする。
--------------------------------	--

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽に親しみ、進んで音楽活動に取り組める児童は多いが、表現活動の技能面や共通事項の理解で、力量の差が高学年になるほど広がる傾向がある。 ○丁寧に歌声や器楽合奏を合わせて取り組むことができる。 ○一方で、全体の調和を意識できずに活動する児童もいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○行事のための表現領域と、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で必要な共通事項を、系統的に学習していく計画が図っていくことが課題である。 ○自分と自分以外の歌声や演奏する音色を注意深く聴いたり、調和させたりする学習の手立てを考えることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3～6年生へ繋げた系統的な学習計画の中で、行事を踏まえた共通事項の取り扱い方について吟味する。 ○教材選択は、共通事項を系統的に押さえやすく、児童の力量と興味関心を高められるものにする。 ○調和させてできる美しい音楽に馴染ませる活動を多く取り入れ、児童が無意識に周りの声や音と調和させられるような学習活動を充実させる。 ○授業外の時間も使い、個別指導で一人一人の技能を高め、個々も全体も、達成感と調和のとれた音楽を味わえるようにする。 ○めあてに沿って手立てを明確に示し、何ができて何がもう少しかを評価し、一人一人がめあてを達成するために試行錯誤しながら取り組めるようにする。

【図画工作】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道具や材料に興味をもち、自分の考えや思いを表現することに、意欲的に取り組める児童が多い。 ○題材の主題について考えを深めたり、さらに良い物を目指そうとしたりする向上心を欠く場面がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○活動や材料の一部のみに興味が集中してしまい、題材のめあてから逸れてしまったり、主題を深められずに終わってしまったりする状況がある。 ○児童の意欲関心にあった方法で、主題を深めたり、作品の質を高めたりする指導が不十分である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の主題を深めるための導入の工夫、身に付けさせたい力に即した各工程のめあてを明示し、道具の扱いや材料の特徴を楽しみながらも目的をもって制作に向かえるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の活動からみとった具体的なアドバイスを個別に行い、良くなった部分を評価し発展的なことに挑戦する楽しさや、手を加えることの価値に気付かせる。 ○それぞれの思いや工夫を認め合う鑑賞の時間を設け、めあてをもとに作品を評価し、主題を深められるようにする。
--	---

【家庭】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○調理や裁縫などの体験的な活動には、計画・準備の段階から意欲的に取り組むことができる。 ○学んだことを家庭で実践しようとする児童は少ない。 ○基礎的な技能を身に付いてない児童や学習に必要な用具を忘れてしまう場合も少なくない。 ○洗濯や裁縫、調理で使う用語の正しい理解については個人差がある。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○衣食住に関する課題のもち方や、家庭生活を豊かにするための工夫を考えてさせていくことが課題である。 ○「生活を工夫する」など家庭と協力し合う学習内容を取り扱う時に、連携をしていくことが必要である。 ○調理や裁縫などの実習で使用する用具の整備していく。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な活動を計画的に取り入れることで、基礎的・基本的な知識や技能をしっかりと身に付けられるようにする。 ○実習を通して、用具や用語の意味を確認する機会を設ける。 ○学んだことを家庭で実践する機会を意図的に増やすことで、基礎的・基本的な知識や技能を身近な生活に活用できるようにし、適応・応用力の伸長を図る。 ○家庭科室の用具の点検、整備を行う。 ○家庭生活への関心を高めることや、生活を工夫しようとする態度の育成を図るために、家庭との連携を強めていく。

【体育】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○「体育の約束」を守って安全に運動し、意欲的に学習する児童が多いが、一方で守れていない児童もいる。 ○学年に応じて、友達と関わり合いながら（励まし合い、認め合い、高め合う）学習を進める姿が見られるようになった。 ○めあてをもって運動し、主体的に考えて運動にしようとする児童が増えてきた。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と関わって学習はできているが、さらにペアやグループでの活動内容を充実させていくことが課題である。 ○様々な取り組みの中で形式的になっているものがあり、その目的や効果を再確認したり、改善したりする必要がある。 ○高学年では、めあてをもって運動することはできているのでさらに自己の能力に合った場や練習を選ぶ（課題解決）力を付けさせていくのが課題である。

<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやトリオ学習、グループでの学習を取り入れ、学年に応じた協働学習を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見合い伝え合う時間の設定 ・作戦タイム等の活用 ・見合うとき等の視点やポイントを指導 ○各取り組みの目的、効果等を再確認し、効率化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・現状を把握し、必要などの改善をする。 ○めあて学習の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しがもてるオリエンテーション ・めあてに応じたスモールステップの場 ・励まし合い、認め合い、教え合うペアやトリオ、グループでの学習の設定 ・学習の成果と課題を振り返り、次の時間のめあてをもつことができる学習カード
--------------------------------	---

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的には、新しい言葉や文化に関心をもち、体験的な活動やゲームに楽しんで取り組んでいる。 ○ALTと給食を食べたり、会話の内容を何となく想像したりしながら積極的に関わろうとする児童がいる一方で、特に高学年では英語は必要と感じながらも、ALTが話す内容が理解できないことから、苦手意識をもっている児童もいる。 ○挨拶などの日常的な会話は、ほとんどの児童が理解してコミュニケーションを図ることができている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国文化や言語に触れる機会を増やし、読む・聞く・話す・書く学習に興味・関心をもたせていく。 ○日常的に英語に触れることができるような校内環境や学習環境を整えていく。また、英語を積極的に「使ってみよう」、「自然に使っている」ような手立てが考えていく。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自己表現やコミュニケーションに自信がもてるよう、新しい言葉や表現を繰り返し発音するような授業の展開をする。 ○外国語活動の校内環境を整え、日常的に触れられるようにする。例えば、ALTの言葉（英語）を理解できない時に、「Please more slowly」「once more please」などの必要に迫られたからこそ出てくる言葉を、自然に発することができるような学習・校内環境を整える。 ○外国語活動だけでなく、他授業でも習った英語を使える場面を設定する。 ○英語を完全に理解できなくても、おおよそ理解できていればOKであることを認識させ、苦手意識を無くしていく。 ○英語理解のための視覚的な補助教材、教具を充実させる。 ○外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができるよう、歌やチャンツ、体験的な活動、ゲーム等を取り入れた学習を工夫する。 ○ALTとの事前・事後の打ち合わせを行い、ねらいを明確にして指導・支援をしていく。

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○調べ学習に意欲的に取り組んでいる。 ○適切な課題を設定する力に個人差がある。 ○課題追究の段階において情報を収集する力に個人差がある。 ○まとめて表現する活動に意欲的に取り組んでいる。（個人、グループ活動共に）
----------------------	---

	○まとめた内容を全体の場で発表することに対して、苦手意識がある児童がいる。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ○個々が学習課題を設定したり、解決の道筋を見出したりできるような支援の工夫が必要である。 ○児童が継続的に意欲をもって活動に取り組めるような手立てが必要である。 ○問題解決力、情報活用力、表現力などを伸ばすための指導法の工夫が必要である。 ○インターネットを使った調べ学習に偏りがちになるため、図書館の利用やインタビュー、フィールドワークなど多様な資料収集の方法を経験させていくことが課題である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館を利用した調べ学習、インタビュー、実際に体験させる、人や物との出会いを取り入れた学習展開の例を児童に示し、場を設ける。 ○図書館や関連施設を利用して十分な資料を用意し学習環境を整える。 ○テーマに関するイメージマップを作成して見せ合ったり話し合ったりして考えを深めたいうで課題を設定する。 ○「思考ツール」を活用して、考え方の変化の過程や話合いの内容を視覚化して、思考を整理できるようにする。 ○情報を取捨選択し、自分の言葉で表現させるために、辞書を活用させる。図書室の資料等も活用させる。 ○他教科との連携を図りながら、新聞、パンフレット、紙芝居ポスターセッション等様々な情報発信手段を経験させる。 ○分かりやすく伝える力を高めていくために、目的意識（誰に何を何のために伝えるか）をもたせたり、まとめ方や発表の仕方のモデルを提示したり（発表資料の手本・声の大きさ・立ち位置・自分で考えた言葉で発表する）、発表の聞き方を工夫させたり（話し手に体と目を向ける・うなづく・心の中で対話しながら聞く・感想や友達の発表の上手な所を見つけて伝え合うなど）する。 ○発表や話し合いのときは、互いの考えの共通点・相違点に気を付けて聞き、分からないこと等は進んで質問するように支援する。 ○友達の学習経過や友達の意見を見たり聞いたりできるような時間を確保する。

○ その他

【学力向上】

- ・板橋区授業スタンダードを徹底し、1 単位時間が一人一人の児童にとって、主体的な活動の時間になることを目指す。
- ・実態の即し、計画的なアクティブ・ラーニング、問題解決型・探究型・協働学習・少人数授業の充実、ICTや図書館の活用などをしていく。
- ・既習や新出の漢字の学習について、適宜、練習プリントや小テストを行い、定着を図る。（板橋区フィードバック学習教材や志五小漢字・計算プリントの活用を図る。）
- ・90%以上を合格とする「漢字マスター制度」を作り、漢字50問テストを行う。満点である児童に「漢字マスター」の証明書を配布し、全員合格を目指し繰り返し指導する。

- ・「志五小道場」を開き、苦手な児童を対象に外部講師や学習指導講師の指導により、東京ベーシックドリルを活用し、基礎基本の定着を図る。
- ・「読書ファイブ」の時間を設定し、読書に親しむとともに読書活動や調べ学習の充実を図る。
- ・金曜日に補習タイムの時間を設定し、主として学習内容の定着が不十分な児童の指導時間に充てる。

【読書活動推進】

- ・音読や読み聞かせの機会を増やし、文章の内容を把握する力を身に付けさせるとともに、自分の意見や考えを表現する力を伸ばす。
(保護者ボランティア・教員による読み聞かせの会の実施)
- ・前後期2回に分けて、全校児童による詩の朗読会を実施し、色々な表現に親しむとともに、興味・関心を高める。
- ・朝読書の時間の設定、「読書のあしあと」の活用を通して読書に親しむ態度の育成や読書活動の推進を図る。
- ・「図書館を使った調べる学習コンクール」への取組。
- ・図書室の活用や図書室の掲示物の工夫による読書推進を、図書館ボランティア、図書館司書と連携して行っていく。